



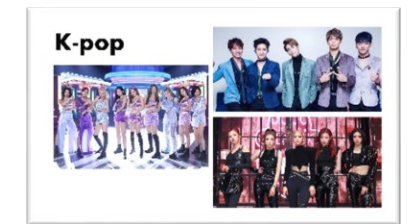
第1回バンコク MSR 高校とのオンライン交流



令和4年(2565年)9月16日(金) 9:45-10:35

日本では9月半ばになると、秋が来たと思にははっきり見えないものの、爽やかな風の音で秋の訪れに気づくことが多い。ただ、今年のこの週末からは、けたたましい台風の声に悩まされそうだが。

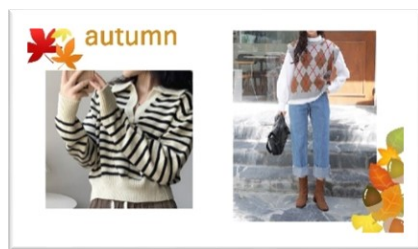
さて、2022年9月16日(金)、本校3年生国際理解コースの生徒がバンコクの姉妹校の生徒とオンライン交流を実施した。本校からは4名、姉妹校からは11名が参加し、Web会議ツールとして、Google Meetを使用。なお姉妹校では、3年前にノイ先生のサブであったブーム先生が今回から国際交流を担当。その第1回は次の4つのトピックについて自国のものを紹介したり、相手に質問をしたりして進めていった。下記の【 】内は、トピックを担当した本校生徒。



- 1【松井夢乃】日本のアニメ(となりのトトロ、千と千尋の神隠し、ナルトなど)
- 2【三輪七海】音楽(校歌、K-Pop、J-Pop など)
- 3【長屋梨々花】ファッション(学校の制服、四季に応じた服装など)
- 4【小山和奏】高校生の恋愛事情(アンケート調査をもとにして)

1では、タイでも人気のジブリ(Ghibli)作品を紹介し、Ghibli という単語の由来について答えの選択肢を工夫した上で質問。だが両校の生徒の表情は硬い。

2では、最初に本校の校歌を流す予定がトラブルによりできなくなったが、その場で即座に本校の生徒が合唱。すると姉妹校もそれにつられて自校の校歌を合唱。結局、お互いの校歌を自ら紹介することにつながり、一気に和やかなムードに。これは幸か不幸か校歌効果と言えるのかもしれない。続いて韓国のグループ TWICE の音楽が流れると両校生徒から歓声が上がり、その場に残され気味の司会者としては、”Now I’ve enjoyed the music by TWICE. In the future I’d like to listen to the music not “twice”, but many times.”などと返すしかないのが情けない。しかし、バンコク生徒の反応はいい。素晴らしい生徒たちである。また、J-Pop の藤井風(FUJII Kaze)の話題になると、彼はタイでも人気で、姉妹校生徒の多くが「風の音」に驚き、楽しんでいるという。



3では、まず本校の制服を紹介し、次に日本の四季に合わせた服装について、その天候や気温にふれながら説明した。一方姉妹校生徒も、夏と冬という2つの季節を例に出して説明。バンコクには雨季と乾季しかなく、「バンコクの冬」という表現に違和感をもってしまいが、バンコクの12月は乾燥し、朝に20℃まで下がることがあり肌寒く感じるとか。日本の冬というイメージとは異なるものの、乾季を「寒季」と表現すれば合点がいく。それにしてもタイと日本には、冬の温度差はかなりある。しかし、両校の女子生徒のファッションにかかる情熱に温度差はなかった。

4では、日本の高校生の恋愛事情についてアンケート結果をもとに説明。ガール(ボーイ)フレンドがいない高校生は75%であり、また、特に要らないという生徒が80%であるという。その理由は2つあり、1つは「フラれて傷つくのが嫌だから」、もう1つが「アニメ、アイドル、ゲームなどに興味や関心が向き、異性に時間やお金をかけたくない」と解説。バンコクの生徒の実情はどうか質問したところ、なぜか男子生徒が出てきて「タイでも同じ～」と恥ずかしそうに答える。「こうした質問はぜひ現地に行って直接聞いてみたいよね～」と興味津々の本校の女子生徒たち。

ともあれ、4つのトピックについて姉妹校生徒が柔軟に対応してくれ、かつ、聞き取りやすい英語で話してくれたことで後味のよい交流となった。これはブーム先生のご指導の賜物である。ブーム先生、まさにマイ・ブームである。